

農技セ第6516号  
平成28年9月2日

各関係機関長 殿  
病害虫防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病害虫防除所長  
(公印省略)

平成28年度農作物病害虫発生予察情報について

平成28年度農作物病害虫発生予報第8号を発表したので送付します。

### 平成28年度農作物病害虫発生予報第8号

平成28年9月2日  
徳島県

#### I. 普通作物 普通期イネ

穂いもち

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では, 発生圃場率が4.0%, 発病穂率が0.02%で, 平年(29.9%, 0.8%)に比べて低い。
- (2) 8月3半旬に県西部(美馬市, 東みよし町, 三好市の11圃場)で行った葉いもち発病調査では, 発生圃場率が36.4%, 発病度が6.3であった。
- (3) 9月1日発表の1か月予報では, 平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は高く, 降水量は多く, 日照時間は平年並か少ないと予測されており, やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 出穂後曇雨天が続いた場合は, 穂揃期にも防除を行う。

紋枯病

1) 予報内容

発生量 平年並～やや多く(前年よりやや少ない), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では, 発生圃場率が64.0%, 発病度が4.0で, 平年(64.2%, 6.8)並の発生である。
- (2) 9月1日発表の1か月予報では, 平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は高く, 降水量は多く, 日照時間は平年並か少ないと予測されており, 発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 病斑が上位葉鞘に進展してくる穂ばらみ期～出穂期が薬剤防除の適期である。薬剤が病患部の葉鞘に十分付着するように, 株元をねらって散布する。
- (2) 発生状況は圃場によって異なるので, 圃場を見回り, 病斑が第3葉鞘まで達している場合は, 早急に防除を実施する。
- (3) 防除は県植物防疫指針に基づき, 使用基準をよく確認(収穫14日前までの剤が多い)し, 収穫時期を勘案の上, 適切な剤を使用する。

トビイロウンカ

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年並), 発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が 9.7%, 株当たり寄生虫数が0.07頭)。
- (2) 石井町の子察灯においては、誘殺を認めていない。
- (3) 9月1日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、発生には中間的な気象条件である。

#### コブノメイガ

##### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が20.0%, 被害葉率が 0.2%で、平年(24.2%, 0.7%)並の発生である。
- (2) 9月1日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

## II. 果樹

### カキ

#### うどんこ病

##### 1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない), 発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が33.3%, 発病葉率が 1.7%で、平年(86.0%, 11.6%)に比べて低い。
- (2) 9月1日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、やや発生抑制的な気象条件である。

#### 炭そ病

##### 1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が 5.7%, 発病果率が 0.1%)。
- (2) 7月6半旬に行った新梢における発病調査でも、発生を認めていない(平年同時期は、発生圃場率が 2.0%, 新梢発病率が0.02%)。
- (3) 9月1日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、発生助長的な気象条件である。

### 果樹共通

#### 果樹カメムシ類(ツヤアオカメムシ, チャバネアオカメムシ等)

##### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年並), 発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

- (1) 8月におけるツヤアオカメムシの子察灯への誘殺数は、勝浦町では平年よりやや少なめに、上板町では平年並に推移している。チャバネアオカメムシは、勝浦町, 上板町ともに平年よりやや少なめに推移している。

[ツヤアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝					浦					田丁				
	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年
8.1	32	17	468	99	124	3	6	3	4	5					
8.2	66	20	228	195	151	1	7	2	12	6					
8.3	101	8	205	212	261	8	5	11	16	7					
8.4	37	18	264	173	143	8	4	20	7	15					
8.5	50	10	135	158	99	10	5	9	7	5					
8.6		9	59	271	94		0	22	19	13					

[チャバネアオカメムシの誘殺数]

月半旬	勝					浦					田丁				
	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年
8.1	26	259	194	12	85	4	25	13	8	27					
8.2	33	87	389	66	104	3	30	22	27	18					
8.3	54	59	289	99	118	10	15	79	52	26					
8.4	73	40	213	132	157	6	11	62	16	20					
8.5	97	81	243	137	122	19	14	25	20	19					
8.6		37	370	420	179		8	52	66	26					

(2) 9月1日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 果樹園周辺の雑木林から成虫が飛来するので、園内を巡回し飛来に注意するとともに、飛来を認めたら早急に防除を行なう。
- (2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
- (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

### Ⅲ. 野菜

#### 夏秋ナス

##### うどんこ病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が66.7%、発病葉率が9.8%で、平年(51.8%、7.1%)並の発生である。
- (2) 9月1日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、やや発生抑制的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

##### アザミウマ類

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率が55.6%で、平年(55.4%)並であるが、寄生葉率は1.2%で、平年(3.1%)に比べてやや低い。
- (2) 9月1日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

##### アブラムシ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並),発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では,発生圃場率が33.3%,寄生新梢率が1.8%で,平年(16.8%,0.4%)に比べてやや高い。
- (2) 9月1日発表の1か月予報では,平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は高く,降水量は多く,日照時間は平年並か少ないと予測されており,発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。アブラムシ類は葉裏や芯芽に寄生しているので,防除の際には,葉裏に充分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

ハダニ類

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年より多い),発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では,発生圃場率が55.6%,寄生葉率が4.0%で,平年(33.5%,2.2%)に比べてやや高い。
- (2) 9月1日発表の1か月予報では,平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は高く,降水量は多く,日照時間は平年並か少ないと予測されており,発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。ハダニ類はほとんど葉裏に寄生しているので,防除の際には,葉裏に充分な量の薬液がかかるよう丁寧に散布する。
- (2) 同一系統薬剤の連用は薬剤抵抗性獲得の恐れがあるので避ける。

秋冬ネギ

シロイチモジヨトウ(9月2日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い),発生程度は「多」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では,発生圃場率が77.8%,50株当たり虫数が5.7頭で,平年(24.8%,2.0頭)に比べて高い。
- (2) 8月のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査6圃場の平均)は,8月第5半旬~8月第6半旬にかけて急増し,858頭と平年(7地点平均:188頭)の4.6倍の発生となっている。
- (3) 9月1日発表の1か月予報では,平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は高く,降水量は多く,日照時間は平年並か少ないと予測されており,やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 次世代の発生を抑制するためにも,被害を受けた植物残渣は圃場に放置せず,確実に処分する。
- (2) 幼虫の齢期が進んだり,食害して葉の内部に潜むようになると,薬剤による防除効果が著しく低下するので,早期発見に努め,若齢幼虫期に防除を行う。
- (3) ネギの集団栽培地帯においては,フェロモン剤による防除が効果的であるので,適切に使用する。
- (4) フェロモン剤による交信攪乱効果は設置後3か月程度で低下してくるので,早めに交換する。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年より少ない),発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では,発生圃場率は11.1%で,平年(27.3%)に比べてやや低く,葉の被害度は0.1で,平年(0.8)に比べて低い。
- (2) 9月1日発表の1か月予報では,平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は高く,降水量は多く,日照時間は平年並か少ないと予測されており,発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

ネギハモグリバエ

1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より少ない)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 8月後半の巡回調査では、発生圃場率は55.6%で、平年(97.5%)に比べてやや低く、葉の被害度は1.3で、平年(25.7)に比べて低い。
- (2) 9月1日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、発生には中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2) 被害葉は発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

## 野菜共通

ハスモンヨトウ(9月2日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「多」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第5半旬～8月第6半旬のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査6圃場の平均)は、1,097頭と平年(7地点平均:515頭)の2.1倍の発生である。
- (2) 9月1日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。

シロイチモジヨトウ(9月2日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「多」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第5半旬～8月第6半旬のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査6圃場の平均)は、858頭と平年(7地点平均:188頭)の4.6倍の発生である。
- (2) 9月1日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫の齢期が進むと薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、若齢幼虫期に防除を行う。

オオタバコガ(9月2日付けで注意報発令中)

1) 予報内容

発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「多」

2) 予報の根拠

- (1) 8月第5半旬～8月第6半旬のフェロモントラップへの誘殺虫数(調査7圃場の平均)は、91頭と平年(9地点平均:25頭)の3.6倍の発生である。
- (2) 9月1日発表の1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少ないと見込まれている。気温は高く、降水量は多く、日照時間は平年並か少ないと予測されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 幼虫が果実等に食入すると薬剤の効果が著しく低下するので、使用基準に基づき定期的な薬剤防除を行う。

[フェロモントラップへの誘殺虫数]

(調査圃場の平均値)

月半旬	ハスモンヨトウ					シロイチモジヨトウ				
	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年	2016年	2015年	2014年	2013年	平 年
8.1	104	138	67	73	93	28	11	93	59	26
8.2	184	108	83	146	111	73	7	11	42	22
8.3	128	112	62	227	123	47	25	10	51	25
8.4	186	100	86	294	170	49	56	5	54	34
8.5	300	187	184	480	216	203	57	12	461	87
8.6	796	232	288	754	299	655	93	11	320	102

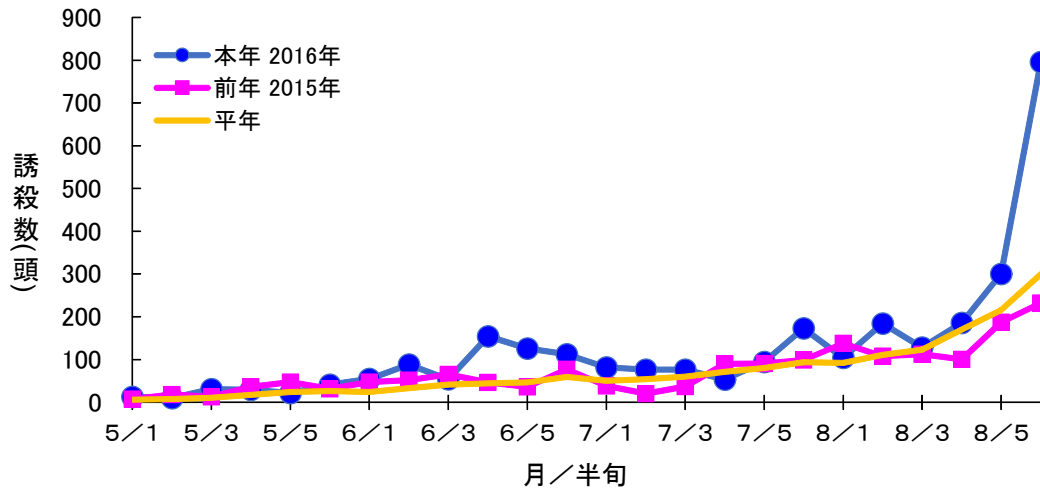


図1 ハスモンヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移 (野菜圃場平均)  
\*徳島市(川内,不動),石井町,阿波市(柿原,香美),吉野川市(鴨島)

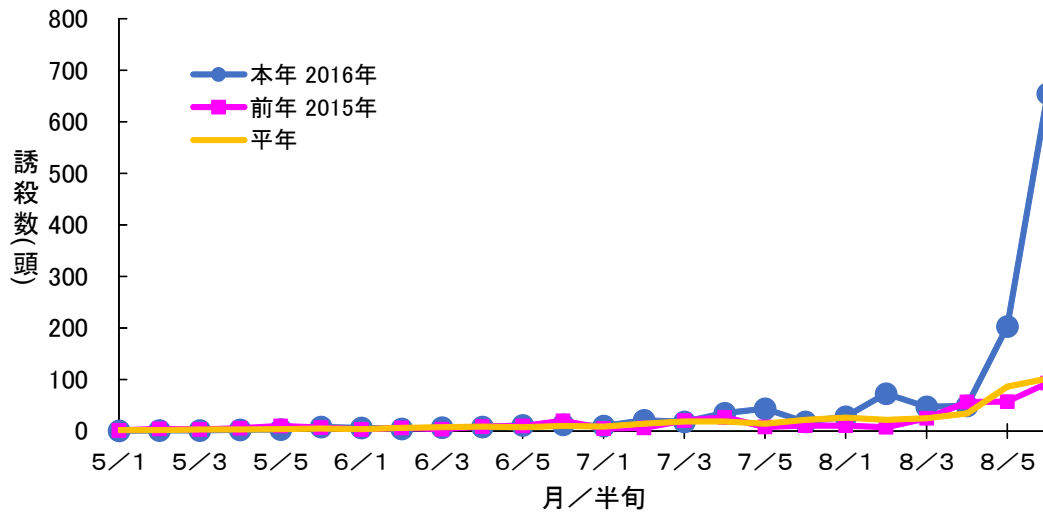


図2 シロイチモジヨトウ フェロモントラップ誘殺数推移 (野菜圃場平均)  
\*徳島市(川内,不動),石井町,阿波市(柿原,香美),吉野川市(鴨島)

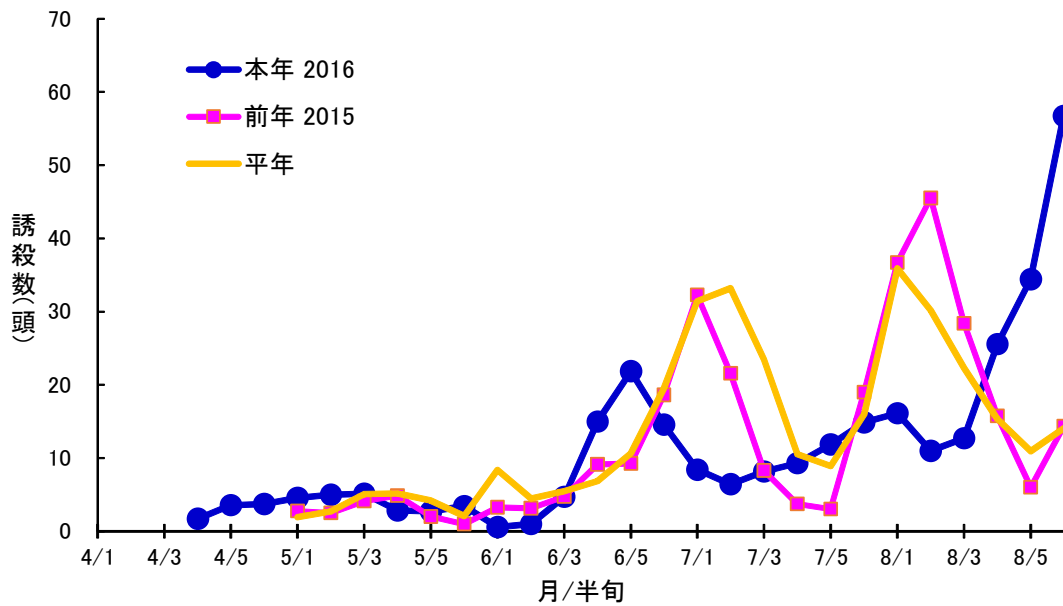


図3 オオタバコガ フェロモントラップ誘殺数推移

\*調査圃場: 阿波市(柿原,香美,下喜来,中原),三好市(勢力),東みよし町(屋間),石井町

#### IV. その他

- 1) 防除にあたっては、圃場をよく観察し、適期を逃さないようにして下さい。
- 2) 薬剤の使用にあたっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないようにして下さい。

#### 発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所  
 URL : <http://www.pref.tokushima.jp/tafftsc/t-boujoshou/>

○ 病害虫の発生予察情報, 発生状況, 防除法等をお知らせしています。